

＜東文研・ASNET共催セミナー＞

ある朝鮮人の日記にみる秀吉の半島侵略

—16世紀東アジアのアイデンティティ問題—

16世紀末、朝鮮人の呉希文が、日本軍による朝鮮出兵の噂を耳にしたのは、彼が家族を置いて半島南部への旅に出かけた後であった。

貧しくも両班階級のエリートであった呉は、混乱する朝鮮国内を旅し、何とかして愛する家族のもとへ戻ろうとした。何気ない旅行の記録となるはずの呉の日記は、日本軍や中国軍、地元の盗賊、疫病、そして飢餓までもが登場する、9年間の難民生活の記録となった。

本報告では、東アジア地域初の国際的な大戦争である「朝鮮出兵／壬辰倭亂」を、呉という人物がどのように見ていたのかに着目する。



呉希文(1539-1613)の『瑣尾録』

※報告は英語で行われます。

◆日 時: 2013年 6月 27日 (木) 17:00-18:00

◆報告者 マーシャル・クレイグ 氏 (東洋文化研究所 訪問研究員)

◆会 場: 東京大学 本郷キャンパス内 東洋文化研究所 1F ロビー

◆参加費: 無料 (申し込みは不要です)

◆問い合わせ: 電話: 03-5841-5868 E-mail: asnet@asnet.u-tokyo.ac.jp

東文研・ASNET共催セミナー

東洋文化研究所とASNETは毎週木曜日の夕方にセミナーを開催しています。どなたでもご参加頂けます。皆様のお越しをお待ちしております。詳しくはこちら: <http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

東大ASNET

検索

東京大学
日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
Network for Education and Research on Asia

